

安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）
第6回策定委員会

日 時：令和8年2月12日（木） 午前10時から正午まで

場 所：へきしんギャラクシープラザ 大会議室

<委員出席者> 14名

※欠席：鳥居こずえ委員、東小百合委員、浮森和美委員、神谷浩委員

【委員長】野村 富雄（市民 スポーツ推進審議会委員）

【副委員長】石川 清幸（社会教育委員）

【委員】犬塚 伊佐夫（社会教育委員）

鳥居 貴之（社会教育委員）

西川 勝幸（社会教育委員）

伊藤 朝野（社会教育委員）

荒井 和夫（社会教育委員）

神谷 有弘（社会教育委員）

深谷 真弘（市民 スポーツ推進審議会委員）

香村 恵介（市民 スポーツ推進審議会委員）

河方 真司（市民 公募市民）

小森 義史（市民 公募市民）

高山 智子（市民 公募市民）

大見 サキエ（市民 公募市民）

【助言者】大村 恵（愛知教育大学）

<事務局等出席者> 8名

石川 良一（教育長）

加藤 浩明（生涯学習部 部長）

大見 徹也（生涯学習部 生涯学習課 課長）

松元 淳一（生涯学習部 スポーツ課 課長）

廣村 郁夫（生涯学習部 生涯学習課 課長補佐）

近藤 真弘（生涯学習部 スポーツ課 スポーツ振興係 係長）

夏目 悠平（生涯学習部 スポーツ課 スポーツ振興係）

日紫喜菜子（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係）

<委託業者> 2名

大谷 優（株式会社 創建 政策研究第2グループ グループマネージャー）

西澤 薫（株式会社 創建 政策研究第2グループ 研究員）

<次第>

- 1 市民憲章唱和
- 2 議 事
(1) パブリックコメントの結果について
- 3 答申
- 4 その他
(1) 今後のスケジュールについて

<配布資料>

- ・ 次第
- ・ 安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）策定委員会名簿
- ・ 安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）<最終案>
パブリックコメント意見募集結果（子ども版）

<議事概要>

- 1 市民憲章唱和
- 2 議事
(1) パブリックコメントの結果について
・ 事務局より「安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）（最終案）パブリックコメント意見募集結果（子ども版）」について説明を行った。

（香村恵介委員）

- ・ 85件子どもからの意見が集まったということで、子どもからの関心が多いのは嬉しいが、大人からは0件なので、一方的な情報発信だけではなかなか届かないということがわかる。次回やる時には、今回の方法以外にも、例えば口コミを流すなど、何か仕掛けや取組が必要だと感じた。
- ・ 6番の「公民館で職場体験がしたい」というのは、社会福祉協議会が「出会って繋がるサロンフェスティバル」を既にやっているし、21番の「アーバンスポーツ施設が欲しい」、26番の「サイクリングロードがあると良い」も、公園緑地課のワークショップで、既に市民の意見として挙がっている。33番の「点字ブロック」も障害福祉課との連携が必要なので、そうした色んな部署と連携することで解決しそうな問題が、たくさんあるのではないかと思った。今回生涯学習課とスポーツ課が連携できるのは素晴らしいことだが、今後進めていく上で、他の課とも連携できるプラットフォームがあると、他部署で既にやっているものの力を借りて、一緒に何かできるのではないだろうか。部署ごとの検討に留まっているのが勿体ない。部署を横断した実務者の話し合いができるような、お互いの課題を持ち寄れる場所があると良いと思う。

(事務局 生涯学習課)

- ・ 口コミ戦略については、確かにそういった手法もあると思うので、また後日、詳しい方法を教えていただくと大変ありがたい。
- ・ 他部署との連携についてのご意見や、環境面でいろんなものをつくって欲しいという要望はたくさんあったので、今回の回答についてはなるべく整理して、他部署との連携を図っていきたいと考えている。

(伊藤朝野委員)

- ・ 知り合いから、子どもも高齢者も、全天候使える公園が欲しいというご意見があった。グラウンドゴルフをやりたいが、23号線の下くらいしか、全天候出来る場所はないそうだ。今、防犯のために公園の街路樹を低くしたり、撤去したりしているが、夏の暑さの中で、どうしたら公園を使えるようになるだろうか。どうしたら市と協力して、これが実現できるだろう、という相談を受けたので、発言させていただいた。

(事務局 スポーツ課)

- ・ 23号線の高架下は雨の日でも利用出来るということで、少し前に利用者にお話を伺いに行ったことがある。やはり暑いときは日陰になって良いし、もちろん雨のときも良いという話を聞くことができた。ああいう場所も活用できたら良いと、スポーツ課としても調査研究しているので、今のご意見も踏まえて、これからも考えていきたい。

(伊藤朝野委員)

- ・ あと、今は車に乗れるから良いのだが、高齢で車に乗れなくなったときに23号線まで行くのは遠い。駅の近くや街中で、グラウンドゴルフなどが楽しめる場所も考えていただけたらと思う。

(小森義史委員)

- ・ 今の意見の追加だが、これはスポーツ課だけでなく、公園緑地課など他の課も絡んでいる話だと思う。小中学校の体育館に冷房が入れば良いのかも知れないが、今の6月中旬から9月上旬まで屋内で運動するのは、高齢者や子どもには非常にリスクがある。その間、身体を動かすことができないと、これは非常に体力低下につながる。また、23号線まで行くのに車を乗り合いで行って、もし事故が起きたとき、どうするかというリスクなどもある。今のご意見は、いろんな市民のニーズが複合的に絡んでいる話なので、ぜひスポーツ課さんだけでなく、全庁的に取り組んでいただけたらと思う。今は子どもファーストで子どもに焦点が当たっているが、やはり高齢者にも少し焦点を当てていただけるとありがたい。

(事務局 スポーツ課)

- ・市役所の横の繋がりが非常に大事であることは認識しており、今でも、特に公園緑地課とは当然情報共有はしている。ただその情報共有が、課長級レベルだけなのか担当者同士もできているのか、先程プラットフォームのお話もあったので、今後はそういったところも含めて、意見のやり取りまで含めた情報共有ができるよう、考えていきたい。

(高山智子委員)

- ・車を手放して、とても不便なので、ぜひともあんくるバスを充実させて欲しい。子ども1人でも遠くの公民館まであんくるバスでいけるように、路線や環境を整えていただきたい。車を手放した高齢者が、どこにも行けず、生活しづらい街になってしまわないように、連携して取り組んでいただきたい。

(事務局 部長)

- ・多方面からのご意見をいただけるのは、本当にありがたいことだと思う。我々も、これまでは生涯学習の計画であれば生涯学習の観点と、縦割りの見方をしてきたところがあるが、今の高山委員のお話は、広くまちづくりということで、安城市民の皆さん、子どもから高齢者まで関わってくる話だと思う。そういったまちづくり計画をする際には、我々が会議でいただいたご意見を他部署とも共有し、様々な観点から物事を捉えて、あんくるバスの充実や、高齢者の方が安心して体力増進に使えるような場所についても考えていけるよう、横との連携をしっかりと、取り組んでいきたいと思う。

(小森義史委員)

- ・今回、パブコメの子ども版が出てきたが、こういう形で子どもの意見が出てきたのは初めてだと思う。今までになかった取組で、非常に良いことだと思うので、他の審議会にもぜひ横展開をお願いしたい。大人の方がいないのは残念なので、手間かも知れないが、中間辺りで説明会を開き、内容を説明すると、その場でいろんな意見が出てくるのではないかと思う。
- ・パブコメも、県のシステムを使ってもできると思うが、非常に使いづらい。市のホームページから意見書をダウンロードすることなども結構難しいので、その辺の仕組みの改善も必要だと思う。小中学生はタブレットを持っているので、少し説明をすればできるかも知れないが、それを大人にも拡大していただけると、もう少し意見が出るのではないかと思う。
- ・大人から見ると、パブコメはハードルが高いように思えるが、ここに出てきた子どもの率直な意見は、施策の裏付けにもなると思うので、もっとたくさん意見が出るような取組をしていただけたら良いと思う。

(事務局 スポーツ課)

- ・今回の子どものパブコメは、生徒さんが持つタブレットへ配信をしたことと、あとは各小中学校へ教室掲示のご依頼をさせていただいた中で、おそらく先生方が授業等で取り扱って下さったのではないかと考えている。その効果があって非常に良かったのだが、やはり大人のご意見が少なかったのは実感している。生涯学習の前計画では大人の見解は6件、スポーツの方は前回も0件だったので、次計画では大人への説明や周知について、これらの結果を踏まえてもっと改善した取組が必要だと考えている。

(小森義史委員)

- ・これは主権者教育の一環にもなると思う。選挙の投票だけが主権者教育ではないと思うので、小中学校では主権者教育の一環として、進めてもらえると良いと思う。高校は担当が県なので難しいとは思いますが、高校生にもこういうことを普及できたら良いと思う。

(香村恵介委員)

- ・先ほどの移動の問題についてだが、送迎に関しては都市計画課やまちづくり等と連携すると、良いアイデアが出ると思う。地元企業の高齢者の移動の問題を解消する乗り合い送迎サービスは、既に安城市でも利用されているので、多分高齢福祉課が知っていると思う。移動の問題は子どもにもあるということや、高齢者がスポーツ関係にアクセスするときも問題になっているということや、担当者間で共有できたときに、都市計画課が「じゃあ今度こういうことやるよ」とか、高齢福祉課が「もう、そういうのあるよ」といった感じで、早く問題解決に繋がるケースもありそうだったのでは、そういう視点はすごく大事だと思う。

(大見サキエ委員)

- ・このパブコメは、難しいことも結構書いてあるので、親が子どもの名前を出したのかと思っていた。子どもが学校でタブレットを使って回答したとのことだったので、そういうシステムがあるのはとても良いと思った。
- ・電子システムは私も何回か失敗をして、嫌になったことがある。意見を言おうと思って登録はしたが、次は上手くいかないということが結構あるので、ぜひ改善してもらえるとありがたい。
- ・今はスポーツという特化した形でなくても、少し体を動かすだけでもスポーツになるので、子育て中のお母さんと子どもが公園で遊ぶのも、健康な体をつくるという意味でスポーツになる。公園は子育て中のお母さん方だけでなく、老若男女の憩いの場になる。公園シンポジウムでは、これから改造しようとしている4つの公園についてお話があったが、安城市の身近な公園をどうしていくかについては、聞けなかった。安城市にはどれくらいの規模の公園が幾つあって、どれくらいの住民が使っているのか、どこに不便

を感じているから、どうしていくと良いかについて、調査して欲しい。見通しを良くするために伐採してしまった公園や、子育ての面からすると非常に残念になってしまっている公園もあるので、子どもの専門家の意見なども取り入れて、公園づくりをして欲しい。ただ遊具を置くだけでなく、どうやって運動機能を伸ばすかとか、危険なく安全に、子どもも親も、老若男女が楽しくいつでも気軽に行けるような公園があると良い。安城市の憲章は素晴らしいので、それを目指すよう、安城市全体の公園がどういう活用をされていて、どんなニーズがあるかというところについてのアンケートを、一度やっていただけるとありがたいと思った。

(事務局 部長)

- ・公園の利用は生涯学習にも通じる場所なので、すごく親和性が高いところである。ご参加いただいた公園シンポジウムは、市内にいくつかある大規模な公園を、再整備していかうという内容で開いていると思う。大規模な都市公園からお近くにある地区公園まで、数的には200～300あるが、地区公園のリニューアルに当たっては、例えば樹木が多すぎると不審者が隠れていそうで怖いので、伐採して代わりに遊具を置くとか、芝生にするなど、そういったヒアリングや話し合いの場は開かれており、今後もっと密になっていくと思う。公園の利用方法も含めて、いろんな角度からご意見をいただける仕組みがあると良いと思うので、これもしっかりと連携して、要望の方は伝えていきたい。

(伊藤朝野委員)

- ・「安城こどもBOOSTERS」を掲げている中で、子どもの権利を生涯学習課はどのように地域の人たちに理解してもらおうとしているのかをお聞きしたい。子どもの意見を、そもそも大人が聞く耳を持っていないことが良くないということ、市民にどう伝えていくのか。子どもも大人も差別なく、1人の対等な人間であるということを市民に知らせて欲しい。

(事務局 生涯学習課)

- ・子どもの権利は当然大事にしていくべきだと考えている。私共も、公民館など子どもが利用することが前提の施設では、利用していただく目線で使いやすいように、子どもが満足感を得られるイベントや取組を行い、また子どもたちがそれに対してどう考えているのか、意向を受け取りながらサイクルを回していきたいと考えている。

(伊藤朝野委員)

- ・私が目にした公民館では、小さなお子さんを連れのお母さんが公民館に本を返しに来たところ、お子さんが「ありがとう」と言っているのにも関わらず、職員は黙っていた。そういう対応をしている職員に対して、どのような指導をされていくのかお聞きしたい。

(事務局 生涯学習課)

- ・本当に、そういうことがないようにしていかなければいけないと思う。職員のそういった教育については、今後もレベルアップを含めて継続して行きたい。

(大見サキエ委員)

- ・子どもの意見で、「公園に充電器が欲しい」、「スマホゲームを何時間もできる公園が欲しい」というのが何件かあった。今、世の中にeスポーツがある。今回はそれについて何も話し合いをしなかったが、そういうものを推進する環境ということであれば、子どもたちのそういった要求を、少し取り入れることもできるかもしれないと思った。

(事務局 生涯学習課)

- ・eスポーツはどうしてもゲームという側面があるので、生涯学習の面ではなかなか推進が難しい。福祉の面では、高齢者の方に対して、認知症予防などで利用されている。企画政策課がeスポーツを普及しているという動きもあるので、生涯学習でも今後何かやれないか、いただいたご意見を参考に検討していきたい。

(深谷真弘委員)

- ・今まで議論してきた内容が幅広く反映されていて、今後とても楽しみになる案になっていると、一市民として感じる。
- ・69、70ページに、基本施策・課題対応表が記載されているが、こちらの基本施策のところに、どういった関連部署や団体を巻き込みながら取り組んでいくのかが見える形になっていると、進めていく上でより良い活動になるのではないだろうか。
- ・62ページの「3. 計画の評価・見直し」に、「中間の令和11年に、社会教育審議会やスポーツ推進審議会等に報告しながら見直しをしていく」とあるが、実際にどういった方を巻き込んで、施策を検討していくのかを知りたい。例えばスポーツであれば、スポーツ推進審議会だけで話すと、また学習の方との連携が希薄になってしまうのではないかと懸念がある。検討を進めていく上で、各種団体や、我々のような企業にも知見があるので、そういったものを上手く活用しながら、実際の施策検討を進めていただけたら、より良いものになるのではないかと思う。
- ・先ほどゲームの話があったので参考までに、学習やスポーツの分野で、ゲーミフィケーションという考え方で、何か学習させるにしてもゲーム性を持たせて学ばせるといった取組をしている自治体や企業も多くある。そういったことをやると、より主体的に「やりたい」、「継続したい」と思う方々が増えるので、そうしたことにも取り込んでいけたらと思う。

(事務局 スポーツ課)

- ・令和11年度の見直しの際は、アンケート調査を実施して市民の方のニーズや要望等を把握し、またこのような策定委員会の場で生涯学習とスポーツ関連の方をお呼びして、検討していきたいと考えている。

(香村恵介委員)

- ・62ページの計画の評価・見直しについて、全体計画に関わる指標として、例えばウェルビーイングの指標はどれだけ充実しているか、生涯学習に満足しているか、スポーツ実施率などが、中間で報告されてくると思う。そのときに、できるだけ年代別、属性別、男性・女性ごとにデータを出していただくと、例えば全体の数値は変わってないが、どこかの年齢はすごく伸びていて、どこかの年代は全然届いてない、というようなことが分かると思う。有効な見直しに繋がっていくと思うので、全体で一括りに出すだけでなく、振り返りの際に、どこに届いているのかがわかるような情報を、これから集めていただくとありがたい。新たに集めるよりは、今ある情報をうまく活用すると良い。例えば、小中学生のスポーツ実施率は、体力・運動能力、運動習慣等調査というデータが既にあるので、そこを出していただければ手間もかからない。そういった年代別・属性別の情報を、ぜひ振り返りの際には出していただきたい。
- ・パブリックコメント9番～16番くらいに、「プロスポーツ選手と交流したい」とか、部活動がなくなることへの懸念が、多く挙げられていた。誰が子どもの運動・スポーツを支えていくのかは大きな問題で、現状、退職した60代～70代の、時間のある方に入ってもらうのが1つの方向性だと思うが、子どもたちからしたら、やはりプロスポーツ選手に教えてもらいたいし、部活動があってほしい。でも支え手がないからどうしてもできない中、若い世代は仕事で忙しくて地域のことが出来ない状況なので、そういった企業の理解をどんどん求めて、何かその助けを借りられるような、理解を広げるような企業への働きかけが、すごく重要ではないかと思う。
- ・人が揃ってきたら、次の段階はスキルアップや指導者の資質確保の問題になってくると思う。残念ながら、スポーツでもハラスメントは年々報告件数が増えている。良い指導者を教育していく中で、指導者講習会を開くときに、固定化した研究者や大学の教員を講師に呼ぶだけでなく、ぜひ市の担当者の方に学会に行きたくて欲しい。例えば、運動・スポーツ系でいうと、日本体育スポーツ健康学会という日本で一番大きな学会が8月に開催される。敷居が高いように思えるが、一般の方も参加できるし、実はネットワークづくりに最適な場所である。講師に良さそうな方と直接お話し出来る機会がたくさんあり、講師を引き受けてくれる方もかなり多い。市の担当者のスキルアップにも繋がるので、年に1、2回、そういう機会に講師のネットワークづくりと、市の担当者のスキルアップを図っていただくと、これから出てくる事業も、より良いものになるのではないかと思う。
- ・大学には、受託研究や共同研究という枠組みもある。市から依頼されて、例えばバスの

ダイヤを一緒につくるというような仕組みもあったりするので、そういうのを上手く取り入れると良い。事業の評価はどういうデータを取ると、もっと達成できていると言えるのか、そのためにどういう質問をしたら良いのかということも含めて、そういう連携の具体的なステップとして、学会に参加して、大学の受託研究や共同研究の機会を活用するなどしていただけたらと思う。

(事務局 スポーツ課)

- ・指導者の確保や質の向上は課題として認識している。指導者の確保については、学校教育課とも連携して企業にお話をしに行ったりして、なんとか解決に向けて今動いているところである。質の確保についても、先ほどのハラスメントについては、オンラインで最新の情報提供ができるような研修ができないかを、研究している。また香村恵介委員にもご相談させていただきたい。

(小森義史委員)

- ・62ページに、評価・見直しは社会教育審議会やスポーツ推進審議会で行うと書いてあるが、4ページの関連計画にも、社会教育審議会は含まれているのか。どこまで社会教育審議会の計画の対象範囲なのか。文化振興計画は、社会教育審議会の対象なのか。

(事務局 部長)

- ・文化振興計画は別である。

(小森義史委員)

- ・文化振興計画は文化振興計画の特別な審議機関があり、スポーツもスポーツ推進審議会がある。生涯学習はこの社会教育審議会だけだと思うが、社会教育審議会の取り扱う対象範囲は非常に大きいと思う。いろんなテーマがあるので、他と比べると、進捗管理や内容の見直しなど、時間的に不十分になりがちではないかという懸念がある。ただ、社会教育審議会は国の体制の中で設けられていると思うので、安城市独自にというのは難しいだろうが、もう少し生涯学習推進計画が十分に審議される体制があると良いと思う。
- ・今回は生涯学習とスポーツを合体させることになったが、当初は文化振興計画もこの中に入れていくという話もあったと思う。その辺は中間見直しでやられるのか、次期計画でやられるのか、お伺いしたい。
- ・文化振興計画は文化振興課なので、教育委員会だと思う。図書館推進計画は、アンフォーレ課が担当だが、教育長がトップである。日常運用的には市長部局なので、その辺が、何となくもやっとする。アンフォーレ課の中にまちなか連携係がある関係でそうされていると思うのだが、図書サービス係だけだったら教育委員会直属が良いと思うが、計画の内容のトップと運用のトップが違うところが、市民として非常に違和感がある。

(事務局 部長)

- ・アンフォーレは建物があり、その中に図書館が入っていて、地域連携は商店街を含めた地域の方との連携なので、そこは市長部局の色が非常に濃い。ただし図書館は昔から教育委員会の方にあるので、建物がアンフォーレに集約された段階で、委任という形で、図書館の計画などは全て教育長がきちんと把握されており、教育委員会でも説明を受けているので、その辺はご安心いただければと思う。確かに少しわかりにくいかも知れないので、今後そこはPRをしていかなければいけないと思う。

(小森義史委員)

- ・教育委員会と市長部局が対立しているわけではないので、やってもらうのは全然構わないのだが、国の法律的には教育委員会が図書館を管理するという建て付けだ。日常の運用を教育委員会から市長部局に委託しているというのは、分かるのだけれど、もやもやする。

(事務局 部長)

- ・審議の過程については、元々はスポーツと生涯学習、文化振興の3本立てで、今回スポーツと生涯学習が合体したので、こういった場で計画については議論をしていただいたが、やはり個別の内容を評価していくには、スポーツはスポーツ推進審議会の方できちんと評価していただいて、それと合わせて生涯学習の審議会でもまとめていきたいと考えている。今までも、そこには文化振興の方も出ているので、そういった計画の進捗状況なども含めて、話し合いができると考えている。

(野村富雄委員長)

- ・非常に良い、たくさんのご意見をいただきましたと思う。
それでは議題(1)パブリックコメントの結果について、皆様のご承認をいただきたいので、承認される方は挙手をお願いしたい。

<全員挙手>

ありがとうございました。皆さんの挙手をいただいたので、承認ということでよろしくお願ひします。

- ・最後に、本日ご出席いただいた大村先生より、コメントをいただきたい。

(助言者)

- ・毎回この会議は熱心な議論が重ねられていて、安城市の生涯学習やスポーツ活動に対する、市民の主体的な活動がそれを支えていることがよく分かる会議だと思っている。
- ・子どもたちからのコメントが、「特にありません」を除いても50件以上寄せられたというのは、やはり素晴らしいことだと思う。おそらく小中学校での取組があったのだろうというご説明だったが、ぜひそれを今回だけで終わらせず、今後の主権者教育という

お話もあったように、地域に関心を持って参加していく子どもたちを育てるためにも、今回この学校でどういう取組があったから、これだけコメントが寄せられたんだということを調べていただいて、今後のパブコメにも、子どもたちの参加を進めていくことを、生涯学習課から横展開していただければと思う。

- ・その上で、聞きっ放しではなく、きちんと答えていくことが大事である。丁寧にお答えいただいているようにも見えるが、欲を言えばもう少し、と思う。例えば27番の、「バス停からウォーターパレスまでのバスが欲しい」という意見に、「該当箇所が不明のため市の考え方を示すことが難しい」と答えている。ウォーターパレスは安城市の施設ではないが、市を越えてそういったところを利用したいという願い、今日の議論にもあった、子どももアクセスできるようにして欲しいといったご意見として受け止めると、もう少し別の答え方があるかもしれない。
- ・アクセスについても非常に多くの意見が出されたが、生涯学習やスポーツ活動に市民が参加していくためには、地域交通の問題は極めて重要だというのは、ご指摘の通りだと思う。いくら良いプログラムを用意しても、そこにたどり着かなければ参加できないので、地域交通をどうしていくかが、今後この計画を進めていく上で、大事な視点になる。自転車道路やサイクリングロードというのも、子どもたちにとってはアクセスの問題でもあるし、そこにおける安全の問題でもあるので、スポーツとしてのサイクリングだけでなく、子どもたちの移動をどう保障していくかという視点は、大切にしていきたい。
- ・評価・検証において、子どもの参加についての文言がないのは、残念なところだ。こども基本法によって、全て子どもに関わることは、子ども及び子どもに関わる大人の参加を進めていくという義務規定なので、市として自覚していくためにも、そこは入れていただいた方が良かったと思っている。
- ・大人のコメントがなかったことについては、安城市は元々公民館活動が盛んな自治体だと思っているが、例えば今回公民館で、この生涯学習計画やスポーツの計画について、話題にしたり、検討したり、皆で考えたりする機会がつくられたらどうか。スポーツ施設でも同じで、講座や利用する団体の方に、「今計画をつくっているので、ぜひこれを読んで意見をください」といった声掛けがされていただろうか。実際に市民と直接向き合っている現場で、市民とどういうやり取りをしていたかについても、今後に向けて検証していただくと良いと思う。検証のときには、大人が参加できるような、参加を促すような取組をしていただけると良いと思った。
- ・環境の問題も、先ほどのアクセスの問題と重なるが、やはり横の連携や他部署との連携が非常に重要になる。バスケットゴール、公園の整備の問題、自転車道路や点字等、こうした環境を整備することが、地域全体、まちづくりへの参加の問題と切り離せなくなっている。例えば先ほどのパブコメへの市の考え方でも、例えば公園についての意見だったら、「公園についてはこういう取組があるので、ぜひ参加してください」という返し方があっても良い。「生涯学習課では答えられない」のではなくて、コメントの返答

についても、やはり横の部署を意識して返していただくと、意見を寄せていただいた方の行動の展開に繋がっていく可能性もあるかと思った。

- ・公園は社会教育、スポーツにとって重要な資源である。ハードの整備だけでなく、公園をどのように運用して、利用していくのかというところで、できれば市民が参加する形で、その公園を活かす取組があっても良いと思った。地域の地区公園や児童公園の整備を皆でしようとか、子どもや高齢者が安全なようにしようとか、あるいは地域によってはプレイワーカーという形で、子どもの見守りをする大人をつける取組もされている。ただ公園をつくるだけでなく、どのようにそれを活かしていくのかというところまで考えると、おそらく生涯学習課やスポーツ課の出番なので、やれることが広がると思う。先ほどのアクセスの問題もあるが、できるだけ身近な場所で、そうしたスポーツ活動ができるように、公園をどう活かしていくか。もう既に、市民の自主的な活動の場として、体操やウォーキングの集合場所などとして使われていると思うが、その運用について市民が皆で考えていく、あるいは運用していくことを、今後は考えていけると良い。
- ・eスポーツは、今回は取り込めなかったということだが、生涯学習やスポーツとしてどう取り組んでいくかというのは、重要な課題ではあるが、一方で、今オーストラリアやスペインなどでは、子どものインターネットとの付き合い方を、少し変えていこうという流れもある。近隣市ではそれを始めているところもあるが、そうしたルールづくりと一緒にこのeスポーツを考えていかなければいけないとなると、これは生涯学習課の大事なテーマだと思う。高齢者や障害者の方、高齢者と子どもと一緒に楽しめるといった交流のためにも、eスポーツは非常に重要で、可能性があると言われているので、ぜひ今後はご検討していただければと思う。
- ・今回計画をスリム化したのだと思うが、それによって、全体を見渡すと、やはり見落としてしまう課題や事業が出てくる可能性もあると思っている。ぜひ検証のときに、きちんと計画と事業が対応していて、推進のためにこの計画が役立つとか、あるいは少し足りない部分がある、ということをご検討いただきたい。国全体として、計画のスリム化を言われているが、他の市町を見ても、スリム化のために今まで挙げていた重要な事業が見えなくなって、計画から抜け落ちていくのが、果たして大丈夫だろうかという懸念もあるので、ぜひこの計画が、どのように運用されていくのか、実際の事業とどう関わっていくのかということ、今後、見ていただけたらと思っている。
- ・市民がつくる計画で、安城市のとても大事な取組だと感じている。ぜひ、これが生きた計画になるように願っている。

(委員長)

- ・先生、ありがとうございます。以上で議題は全て終了した。ここで事務局に進行をお返しする。

3 答申

4 その他

(1) 今後のスケジュールについて

- ・本日の答申をもって、3月に開催される安城市教育委員会定例会で審議いただくことになる。この定例会で承認をいただいた後、4月より、この生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）がスタートすることになる。計画書については完成次第、皆様方のお手元に郵送でお送りさせていただく。その後は、安城市社会教育審議会などで本計画の進捗管理を行っていくことになる。
- ・これをもって、生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）策定委員会を終了させていただく。長期間、長時間にわたり、ご審議、また貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

以上